公益社団法人日本照明家協会
2019年度事業報告

公益社団法人日本照明家協会が創立以来一貫して追究してきた基本理念は、「演出空間・映像領域」の創作活動に対し、芸術性のある照明手法をもって作品の完成度に寄与するにある。この理念実現のため会員・非会員を問わず照明家の資質と技能向上を願い、協会活動に力を入れ今日に至っている。

当年度の事業活動は、定款に定める本会の目的達成のため会員目線に立った協会運営に努め、本会の先達が築き上げた歴史を引き継ぎ、演出空間・映像領域の照明の将来を築くべく公益活動を展開した。

Ⅰ　公益目的事業

本会の目的及び事業は定款第 4 条及び第 5 条に定められている「公益目的事業」である。
以下、定款の順に従って報告する。

（事業の内容）

１　照明技術に関する技能の認定

「舞台及びテレビジョン照明のための公開講座」を 2020 年 1 月～2 月に開催。その内、中央講座は、東京、静岡、金沢、広島の 4 カ所で開催した。6 年ぶりに北海道旭川も開催を予定していたが新型コロナウィルス感染症拡大により中止した。地域講座は、仙台、札幌、名古屋、大阪、福岡、東京の 6 カ所で開催した。これに併せて、中央講座に「舞台・テレビジョン照明技術者 1 級試験」、地域講座に 「同 2 級試験」を実施した。

1 級技能認定合格者：58 名受験の内 45 名、2 級技能認定合格者：110 名、協定校 2 級認定取得者：264 名。

「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定制度」は 1981 年春に制定。その後、時代の要請に応えながら、**技能認定委員会**を中心に制度改革の研究を進めている。今年度は進化する機器に対応する「ネットワーク」「LAN」の講義も新設された。

中央講座は文化庁の委託事業として、文化庁・日本照明家協会の共同主催、日本照明家協会制作、全国舞台テレビ照明事業協同組合後援で実施された。

地域講座は各支部長の権限に委ね、支部が実施主体となり支部や地域の事情に合致するように開催。会員・非会員を問わず、照明家全体の照明技術の普及とレベルアップに貢献している。また支部と本部とで連携し、地域の協会活動の活性化の中核をも担っている。技能認定 2 級の試験及び認定評価は技能認定委員会が全支部の基準を統一し統括している。

２　研修会、講演会、展覧会等の開催

次世代育成委員会傘下、**新人講座部会**担当の「新人講座」は 2019 年 4 月 6 日～9 日の 4 日間、BIZ 新宿多目的ホール・日本大学芸術学部江古田キャンパス及び中野サンプラザホールで開催、

新年度に各事業所に採用された新人を主な対象とし76名が受講。これから社会人としてまた照明家として第一歩を踏み出す大切な時期に必要な心構えと基礎知識･基本作業をしっかりと身に付けてもらうことを目的に開催。参加希望者も多く、関東周辺のみならず地方からも多くの参加があった。全国舞台テレビ照明事業協同組合と共催で実施。

安全委員会では「安全な作業のための講習会」を2カ所で開催した。
名古屋市文化振興事業団と共催して2019年7月2日名古屋市芸術創造センターに於いて139名の参加人数で開催。2019年8月27日には沖縄支部と連携して南風原町立中央公民館に於いて参加者41名で開催、好評を得た。
全国舞台テレビ照明事業協同組合と協力し「フルハーネス型墜落制止用器具特別教育」を東京都職業能力開発センターにて2019年6月24日（140名)、7月16日（52名)、8月5日（34名)、9月2日（35名)、10月28日（74名）5回にわたり開催した。
協定校に対して行われる出張安全講座は、2019年7月3日尚美ミュージックカレッジ専門学校（25名)・11月27日新潟国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校（8名）で行い、照明を志す学生の安全に対する認識を持ち災害低減につなげるための「ヒューマンエラーとリスクアセスメント」を趣旨に行った。

次世代育成委員会による全国高等学校演劇協議会への支援活動は2019年7月25日～29日佐賀県鳥栖市民文化会館にて行われた第43回全国高等学校総合文化祭演劇部門の会場で、日本舞台美術家協会・日本舞台音響家協会・日本舞台監督協会と連携して、舞台技術創造講習会を行った。各スタッフワークの手順、技術等実演を交えて解説していくことで、参加者が我々の業界、職域に興味を持って進んでもらえるような契機となった

３　照明に関する調査研究

技術委員会では、「全国舞台照明技術者会議・照明の未来へ向けて～2020の先へ～」を、2020年2月12日～13日　新宿･芸能花伝舎に於いて、舞台照明家としての「知識」「技術」「考え方」を見つめ直し、個々のスキルアップと照明家のこれからを考えるワークショップとして、会員･非会員を問わず多くの照明家や照明に興味を持っている人に参加いただき課題共有を目的に開催した。

参加者は協会員のみならず舞台関係者・演劇関係者・学生・ホール劇場運営管理者など多岐にわたり延べ78名だった。
内容は知識編専門セミナーとして
P1 Vectorworksセミナー「Vectorworks2020の新機能」講師：佐藤和孝氏／エーアンドエー
P2 シミズオクトセミナー「コンサート業界のトラス」講師：松延弘記氏／シミズオクト
P3「ホール・劇場管理者の集い」意見交換会
P4 ヴィジュアライザー講座　Part2、P5「大賞受賞作品はこうして創られた！」

技術編～体育館で仮設やってみよう。
限られた空間で照明演出効果を生み出す～ダンス公演の場合～
デザイナー　清水淳氏／ライティングビッグワン(株)

デザイナー　八木優和氏／(株)宝塚舞台
実演協力　東京スクールオブミュージック＆ダンス専門学校
セミナー参加者からは「時間が足りず深い話が聞けなかった」「時間がアッという間に感じられた」などの意見もあり好評であった。詳しくは協会誌 2020 年 4 月 5 月号に報告された。

2020 年 1 月 15 日　沖縄コンベンションセンターに於いて「地域舞台照明技術者会議 in 沖縄」を、会員の舞台照明家としての「知識」「技術」「考え方」をもう一度見つめなおし、個々のスキルアップを図る機会し、「より幅広く・深く・系統的」に基礎から最先端の技術や考え方に触れ、会員一人一人の知的財産にするなど、「舞台」の魅力・奥深さを知ってもらい、照明家の社会的認知を図る目的で開催した。参加者は 20 名。
会議の内容は第 1 部技術編「デジタル器具配線とネットワーク」解説岡山貞次氏、腰越礼二氏(技術委員)。第 2 部知識編「地域の現場とデザイン」松田弘志氏（副会長)。第 3 部座談会/協会副会長・支部執行部と地域照明家との座談会。
最新技術を講演できたことで地域の照明家にとり有益な情報提供ができた。座談会では普段、現場では深く話せない内容まで共有できた。
小規模ではあるが、大都市圏での協会セミナーなどに参加できない会員の評価は高い。又、懇談会で地域会員の生の声が支部幹部、本部役員まで直接届く効果は大きい。地域活性化の意味でも支部・本部が連携して継続事業として定着していきたいと考えている。詳しくは協会誌の 2020 年 3 月号で報告された。

また、2020 年 2 月 7 日幕張メッセで開催された「ライブ・エンターテイメント EXPO」のセミナー会場で、全国舞台テレビ照明事業者協同組合との協賛事業として技術セミナー・安全セミナーを、見学来場者に向け当協会の PR、業界の活性化に貢献することを目的に開催した。受講者は延べ 50 名であった。技術セミナーは『照明デザインと現場』講師：清水淳氏／ライティングビッグワン（株）で行い、普段は表に出ないライティングデザイナーの仕事の仕方や裏話は来場者から好評であった。安全セミナーは『演出空間で働く人たちへ』片野 豊氏／当協会安全委員で行い、リスク管理、関係法令も交え安全管理を見直す講演となり来場者に改めて安全への意識を持つことの重要性を理解いただけた。
詳細は協会誌 2020 年 4 月号に掲載された。

「第 37 回全国テレビ照明技術者会議」『尾張名古屋は面白い！Enjoy the LIGHTING』は、**テレビ部会で実行委員会**を構成し、2019 年 10 月 3～4 日の 2 日間、名古屋市中京テレビ放送株式会社プラザ C に於いて盛大に開催された。参加者は 1 日目会議 173 名　懇談会 169 名　2 日目会議 163 名だった。
年に 1 度、テレビ照明関係者が一同に集まり、技術の向上や知識・人材育成など習得する。また、協賛会社による照明機器やコンソールなど新機材の展示を行い未来への発想と照明技術への進歩をテーマに会議を行った。
基調講演「テレビ塔が元気な名古屋をつくる」大澤和宏氏
講演
1.「4K HDR/HD SDR の同時制作を実現するライブ制作ワークフローについて」
　肥後淳基氏

2.「名古屋で演劇を続けるコト」佃　典彦氏
3. 平成30年度第38回日本照明家協会賞テレビ部門大賞・文部科学大臣賞受賞記念講演
「日曜劇場「ブラックペアン」第1話での照明技術について」鈴木博文氏

中部支部での開催にあたり地元の特色を活かした基調講演・講演だった。また、展示会も37社の協賛会社に出展いただき照明家との貴重な意見交換が行われた。

次世代のテレビ照明を多角的に検証する会議となったことが多方面から評価された。詳細は協会誌2019年12月号、2020年1月号に掲載された。

N.G.C.(Next Generation Committee）は、若い世代の照明家の現場レベルの技術研究会として支部ごとに活動している。

前項各事業に併せて、照明機材の新製品等の展示を行い、新しい照明技術の広報・啓蒙を行った。これらの事業は、当協会員のみならず、全照明家のスキルアップ、専門家としての資質の向上のため、継続的に実施し、環境保護、エコ対策や新光源への対応など、社会の要望に沿ったテーマで企画している。

国際委員会は2019年11月22～24日、米国ラスベガスにおいて「国際照明機器展LDI2019」でのガイダンス及び情報交換会を実施。ガイダンスは35名参加、情報交換会には69名・「KA」バックステージツアーでは30名が参加。エンターテインメント産業の本場ラスベガスで実施されるプロフェッショナル照明の展示会を視察し、世界の最新事情と照明機器の進化を体験。最新の業界のトレンド及び課題を実感した。情報交換会では会社・業種の垣根を越えて自由闊達な議論を展開し今後の照明事業実務の向上を目的に開催。バックステージツアーは劇場技術担当者の協力もあり充実した内容でじっくりと劇場を体感できた。協会誌2020年2月号に詳細が報告された。

海外で活躍する会員によるエッセイを協会誌やホームページに連載しているが、更に、国際委員会では、海外からの招聘公演レポートを協会誌2019年11月号などに掲載している。

４　研究の奨励及び業績の表彰

顕彰委員会が担当する第38回日本照明家協会賞授賞式及び懇親パーティが2019年6月19日中野サンプラザで定時総会に引き続き開催された。協会賞大賞（文部科学大臣賞）に舞台部門で原田　保氏、テレビ部門から鈴木博文氏が選ばれた。

全ての受賞者・作品は受賞の理由を付して協会誌及びホームページで公表し、大賞に関しては協会誌やホームページ等で詳細な解説をして、他の照明家の参考となるようにしているが、更に「全国テレビ照明技術者会議」で、大賞受賞者による受賞作品についての講演も行った。
2019年1月1日から12月31日までに上演若しくは放映をされた作品に対する表彰「第39回日本照明家協会賞」が文化庁の後援で公募され、慎重・厳正に審査され、大賞（文部科学大臣賞）に舞台部門で森 規幸氏、テレビ部門は牛尾裕一氏が選ばれた。

５　協会誌及び関連図書の刊行

広報委員会は本会の基本理念・目的の浸透、照明家のスキルアップ・クオリティーの向上を

目指して、「日本照明家協会誌」を毎月 3400 部発行。毎月行われる編集会議では、協会誌台割りと担当委員を決めるなど、議論されている。「今月の一本」、「梅ちゃん先生の法律相談」、「ニューヨークエッセイ」など連載企画と共に「役立つ知識箱」、「国際委員レポート」など会員に多くの情報を届け、支部レポートや事務局レポートで協会活動を報告している。

併せて **WEB 作業部会**は情報の速報性に鑑みてウェブサイトによる公開や毎月のメールマガジンの発行を事業として実施している。技術者会議など各種セミナーの報告もホームページと連携する事で動画も配信出来るようになった。

出版委員会は会員の資質及び技術向上のために各種の出版を行っている。
今年度は「舞台テレビジョン照明 電源の基礎知識」を発刊し 429 冊発行した。
毎年増刷を続けている「舞台テレビジョン照明［基礎編］」は 1494 冊発行できた。
他に「舞台テレビジョン照明［知識編］84 冊、［技能編］」74 冊、「舞台・テレビジョン照明技術者(2 級)技能認定試験問題集（改訂版)」249 冊、「テンプレートセット」199 組、「電気技術講義テキスト」27 冊、「日本舞踊の照明」20 冊、「舞臺照明の仕事」76 冊、「現代照明の足跡～歴史を創った 7 人の巨匠たち」14 冊,「照明家のための安全な綱元操作の常識」DVD 7 部が発行された。

出版委員会傘下の**手帳編集作業部会**は照明家が日常的に活用する情報を満載した「照明家手帳 2020」を刊行した。前年版から継続して会館情報の修正を行った、また他支部の協力もあり順次情報は更新されている。技術委員会は最新の技術情報を安全委員会は安全衛生について掲載した。

６　関連団体等との連絡や提携

全国舞台テレビ照明事業者協同組合（全照協）、公益社団法人全国公立文化施設協会（公文協）、また公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）を中心とした正会員との交流を行ない、様々な情報交換や活動を実施した。

Ⅱ　協会組織運営

１．会勢

協会の組織増強は、照明家の社会的地位の確立の一助ともなり、延いては芸術文化の興隆に貢献することに繋がる。会員数は減少傾向にあるが本会の存在意義は公益認定と相まって高まってきている。期首会員数：2,468 名、期末会員数：2,404 名。

２．総会、理事会

2019 年 5 月 21 日開催の理事会で定時総会の開催及び議案が承認され、2019 年 6 月 19 日に定時総会が開催された。2018 年度（平成 30 年度）事業報告の後、2018 年度（平成 30 年度）決算が承認された。その後、新理事に岩城 保氏が選任された。

2020 年 3 月 23 日に 2019 年度第 2 回定時理事会を予定していたが、新型コロナウィルス感染症が拡大し自粛要請も出されたため、やむなく定款第 35 条(議決の省略)を適用し書面による理事会を提案して 2020 年度事業計画並びに収支予算案が承認された。また、「定款施行細則」の一部改訂、「謝金及び旅費規程」の改訂、「リスク管理規程」の新規策定が承認され、理事会推薦役

員候補選考委員会の報告があった。

３．業務執行体制

原則として毎月１回の「執行理事会」、隔月で「本部運営会議」を開催した。業務執行理事及び各委員会代表が参集して、理事会が決めた業務について、情報を交換、共有して執行の具体的な方法を審議し実施した。

事務局が毎月作る月次決算を元に、財務委員会を開催。毎月の「執行理事会」「本部運営会議」に於いて財務委員長による財務報告がなされ、予算執行の進捗状況が適切に確認されている。

４．全国事務局会議

2019 年 6 月 20 日、全国事務局会議は芸能花伝舎で開催され、全国の支部長・支部事務局長が集合し、会長、副会長、理事など本部役員と懇談、協会の現状を把握、本部事務局との意思の疎通を図ると共に諸事案について話し合われた。

５.公益委員会

毎月行われる公益委員会で次の規則が策定された。

・内規として運用されていた本部事務局関連規程の「就業規則」一部改定案の作成。
　2019 年 5 月理事会承認。

・2018 年 9 月に「会計規程」の一部が改訂され、影響を受けた「謝金及び旅費規程」及びガイドラインの改定案作成。
・「定款施行細則」第 38 条（執行理事会）、第 39 条（本部運営会議）の一部改定案及び「定款施行細則」条文中の誤表記訂正案の作成。
・本会の組織防衛、リスクの軽減を図る「リスク管理規程」の策定。
　以上 2020 年 3 月理事会承認。

・総会、理事会、委員会及び理事、本部事務局等の権利と責任を明確にする「職務分掌表」を作成し、併せて「事務処理規程」を策定。2020 年 5 月理事会提出予定。
・慣行として実施されてきた会員及び関係者の慶弔について、「慶弔規定」案の策定検討中。
・「文書管理規程」策定検討中。

６．本部事務局

芸能花伝舎への事務局移転を機に、本部事務局の執務体制の整備を進めてきた。同時に、委員会を中心とする会員主体の協会活動が活性化し、関連する事業間の業務も多様化し、事務局に求められる業務量も拡大している。

2019 年 12 月内閣府より公益法人として相応しい運営体制かを問う立入検査があった。評価は概ね好評をいただいた。今後は、更に体制を整えるため一層の研鑽を積む所存である。賛助会員様に対して、公益社団法人になる前のままの口数でお受けしていた経緯があり、申し訳ありませんでした。今回、定款施行細則の定める口数へ変更して頂き、ありがとうございました。今後この様な事がない様に注意してまいります。

以上　（2020年5月22日　理事会承認）